

文化・環境・教育

大学のまち京都

目指すべき将来像

【20年後にありたい姿（長期ビジョン）】

- 京都の大学で学んだ人材が、京都府をはじめ国内外で活躍することで、京都の大学への入学者数が維持され、京都は「大学のまち」であり続けます。
- 若者に限らず多くの人々が大学で学び、また、変化する社会環境に適応するため恒に社会人が学びたい時に学べる社会が、実現しています。
- 大学生が地域活動に積極的に取り組み、地域の活性化に今まで以上に貢献しています。
- 大学の研究成果等が社会に還元され、産業振興や地域活性化に活かされています。
- 大学生の多くが府内で就職し、地域振興に活躍します。

【4年後に到達させたい状態（中期計画）】

- 大学連携による単位互換制度やインターンシップの取組みが広がり、大学生の学びを支える環境づくりが進んでいます。
- リカレント教育の取組みが広がり、社会人をはじめとするより多くの人々の受入れが進んでいます。
- 市町村と大学の連携事業などを通じて、地域活動に参加する大学生が増加しています。
- 大学が「地（知）の拠点」として、地域の課題解決に貢献する事例が増えています。

- 府内人口に対する大学生の割合は高くなっています。

(表 1 大学生の状況)

年度	23年度	26年度	29年度
大学生数(人)	166,554	167,561	166,678
府内人口100人 当たり学生数(人)	6.33	6.42	6.39
全国順位	1位	1位	1位

- 18歳人口は20年前と比べ減少しています。

(表 2 18歳人口：全国)

年度	9年度	14年度	19年度	24年度	29年度
18歳人口 (万人)	168	150	130	119	120

- 府内で地域貢献活動する大学生は増えています。

(表 3 大学生人口の状況)

年度	27年度	28年度	29年度
地域と大学との協働 事業に取り組む大学 生の数(人)	1,544	3,512	4,778

※ 1まち1キャンパス事業及び京都学生祭典（地域の美化活動等やイベント等）への参加学生数

- 府内大学生の府内での就職率は、低い状況にあります。

(表 3 大学生の府内での内定の状況)

指標	平成27年度	平成28年度	平成29年度
京都ジョブパークを利用した 大学生の府内内定者数	—	1,389	1,554

※ 平成28年度から調査を開始

現状・課題

対応方策

- 大学コンソーシアム京都と連携し、大学連携による単位互換制度やインターンシップの取組や大学が行うリカレント教育の取組を促進します。
- 大学が「地（知）の拠点」として市町村等と連携して行う取組を拡大し、地域で活動する大学生数の増加を図ります。
- 大学生に対し、府内企業を紹介し、就職に繋がります。

対応方策を検討するに当たっての論点

- 大学における学びの環境を、どのように整えていくか。
 - ① 大学コンソーシアム京都との連携について。

 - ② 学びたいときに学ぶことができるリカレント教育の促進について
- 大学生の地域での活動を、どのように支援していくか。
 - ① 地域活動に大学生が参画する機会の増加と、地域の活性化や交流人口の拡大について。
- 大学が「地（知）の拠点」として展開していくためには、どのようにすればよいか。
 - ① 府内各地の課題解決に向けた調査・研究の成果の地域還元・発信について
- 府内で就職する大学生を、どのように増やしていくか。
 - ① 大学生に府内企業を紹介するためのプログラムの構築について

 - ② 府内企業への就職のための支援体制について。

 - ③ 府内企業と大学生とのマッチング機会の創出について。

【上記の対応方策に連動して検討すべき数値目標について】

数値目標の候補	単位	現状：2017
社会人の大学入学者数	人	
府内で地域貢献活動等を行う大学生の数	人	4,778
府内大学と京都府との包括協定数	大学数	7
府内大学と府内市町村との包括協定数	大学数	
京都ジョブパークを利用した大学生の府内内定者数	人	1,554人